

業務概要

目的

新宿区は「ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン」(2011年3月)を策定し、ハードのユニバーサルデザインのまちづくりを推進しているが、新宿区に暮らし、訪れる多様な人々に配慮した総合的なユニバーサルデザインの推進を図るため、2014年度からソフト面のガイドブックの発行を進め周知啓発を図っている。

概要

ユニバーサルデザイン・ガイドブックは区民に身近なテーマを取上げ、障害当事者や外国人学生を含む区民参加のワークショップで検討して編集している。A5判8ページでコンパクトなサイズにし、年間2冊、5年間で10冊発行し、シリーズを充実させていることが特徴である。

また、小学校や町内会、商店会、職能団体等に配布して、実務面でも役立てて頂けるよう配慮している。

ユニバーサルデザイン ガイドブック

シリーズ10冊

- ④ ユニバーサルデザインってなんだろう
- ① みんなが参加しやすい防災訓練
- ② みんなが嬉しい“おもてなし”
- ③ 心と心でコミュニケーション
- ④ UDで整備されたものの有効活用
- ⑤ 身近な交流の機会
- ⑥ つかい手とつくり手のニーズの共有
- ⑦ つくり手がつかい手のニーズを反映
- ⑧ だれにでも見やすく、わかりやすいチラシや貼り紙
- ⑨ 心のバリアフリー 私にできるサポート



④ ユニバーサルデザインってなんだろう

ユニバーサルデザインの考え方を、まちの中の1シーンを例示して解説した冊子。まちには多様な人が行き交い活動していること、交差点には様々なユニバーサルデザインの工夫があること、私たちにもできることなど取上げている。

① みんなが参加しやすい防災訓練

町内会主催の防災訓練に障害者が参加することで、避難する時に支援の必要な人が住んでいることを知ってもらおうキッカケになることを目的に編集した冊子。実際の避難訓練に参加し、町会の方々との交流を踏まえて、配慮事項を整理した。

④ UDで整備されたものの有効活用

新宿区内では、様々なユニバーサルデザインのまちづくりが行われている。それらユニバーサルデザインの考えで整備された施設・設備を有効に使うためには、どうすれば良いのか、整備事例や活用方法などを紹介した。